

## 第6学年1組 国語科学習指導案

千葉市立弥生小学校

指導者 川崎 世光

1 単元名 日本語のひびきを味わう  
～「わたしの古典の楽しみ方」紹介をしよう～

2 単元の目標

- 古典の文章について内容の大体を知り、言葉の響きやリズムを味わいながら音読する。
- 昔の人のものの見方や感じ方について知ったり、自分のものの見方や感じ方と比べたりする。

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・言葉の響きやリズムを味わいながら、すすんで音読したり、作品の楽しみ方を紹介したりしている。	・お気に入りの作品を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。 (C 読むこと (1) オ)	・お気に入りの作品をさがし、紹介する中で、内容の大体をつかみながら、音読している。(伝国ア(ア)) ・昔の人のものの見方や感じ方について自分なりの考えをもっている。(伝国ア(イ))

4 単元について

(1) 本単元で育てたい力

本単元では、お気に入りの古典作品の楽しみ方を伝え合う言語活動を通して、主に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」における(1)ア「(ア) 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。」と(1)イ「(イ) 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。」と(1)イ「(カ) 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。」に関する能力を育てようとしている。

(2) 本単元で行う言語活動

子どもたちが古典に親しみをもち、そのおもしろさを感じ取って、すすんで伝えようとする意欲や態度を育てるために、以下のような言語活動を取り入れることにした。

- ① 作品内容の大体を知り、音読や暗唱をすること
- ② 表現に注目して古典作品を読み、古典の楽しみ方を見つける

本単元では、古典への親しみを深める導入として、日本最古の随筆である、清少納言の枕草子が教材文として紹介されている。枕草子に描かれるそれぞれの季節に対する表現は、子どもたちが昔の人のものの見方や感じ方を知るのに適した教材と言える。体言止めや対比などの技法を用いて、それぞれの季節への思いが簡潔に生き生きと表現されている。リズムカルでテンポもよく、読みやすい文体である。また、作者の季節感には、現代にも共通する部分があると同様に、読者の予想や期待の裏をかくような独特な視点もある。そこが面白さのひとつになっているのだろう。ここでは、内容の大体をつかませると同時に、独特なリズムや文語調に親しませるために音読学習を行う。次に、感想交流を通して、枕草

子の楽しみ方を見つけていく。さらに、他の古典作品を並行読書しながら、自分の見つけた古典の楽しみ方をお気に入りの作品でも見なおしていき、友だちと紹介し合う学習を行う。「わたしの古典の楽しみ方」には、自分のお気に入りの作品のおすすめポイントや、作品中に使われている言葉や表現のおもしろさなどを書いていく。グループでの交流で共通の視点を持ち、話し合いができると考えたからである。「わたしの古典の楽しみ方」を見つける活動は、端的に自分の思いや考えを表現するのに適した言語活動である。聞き手に作品のよさを伝えるための手段として、活用していきたい。また、お互いの音読を聞き合い、場面や人物の様子を想像したり、現代文と比較したり、意見交換をしたりすることで、作品のイメージをふくらませていく。多くの作品に出合わせることで、伝統的な言語文化に親しませると共に、日本語の美しさやよさに気づかせていきたい。

### (3) 言語活動によって身につけさせたい力と具体的な子どもの姿

- ① 古典のリズムや語調を感じ取りながら音読する力。
- ② 内容の大体をつかんで、昔の人の感じ方や考え方を理解しながら、自分の考えをまとめる力。

つけさせたい力		具体的な子どもの姿
① 古典の作品を音読する力	A	・お気に入りの作品を、古典のリズムや語調を感じ取りながら、自分の思いや考えが伝わるように音読している。
	B	・お気に入りの作品を、古典のリズムや語調を感じ取りながら音読している。
② 昔の人の感じ方や考え方を理解しながら、自分の考えをまとめる力。	A	・お気に入りの作品の楽しみ方について、自分の思いや考えが伝わるように紹介している
	B	・お気に入りの作品の楽しみ方について、紹介している。

※Bに到達していない児童には、以下のような手立てをとる。

- ・作品が読めない子どもには、歴史的仮名遣いをひらがなで示し、音読しやすくなるよう支援する。
- ・自分の考えがまとめられない子どもには、視点を示したワークシートを配り、解説文を読みながら楽しみ方を見つけるよう助言する。

5 指導計画（5時間扱い）

次	時間	学 習 活 動		支 援 と 評 価 (◇)
		<p>&lt;常時活動&gt;                      古典コーナーを設置し、さまざまな古典作品に触れる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習での音読を楽しんだり、自分で読んで楽しんだりできるように、教室に多くの古典作品を並行読書できるようにする。</li> </ul>
第1次	1	<p>&lt;学習のゴールをつかんで、単元の見通しをもつ&gt;                      ○「春はあけぼの」の古文を比べ読みし、作品のおもしろさについて話し合う。                      ○「わたしの古典の楽しみ方」を友だちに紹介するという単元のめあてをつかむ。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>ゆっくりと読み、写真等を用いて、情景をイメージできるようにさせる。</li> <li>読みにくい歴史的仮名遣いは、正しい読み方や意味を助言し、繰り返し音読させる。</li> </ul> ◇原文を音読し、文語の特徴に気付いている。(言語についての知識・理解・技能)
第2次	2	<p>&lt;ゴールのための課題解決&gt;                      ○「わたしの古典の楽しみ方」①を見つけるため、全文を音読し、見つけた楽しみ方を紹介する。                      お気に入りの作品に活用する。</p>	古 典 作 品 の 並 行 読 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>原文にある具体的な言葉を取り上げて、現代文と古文を比較させる。</li> </ul> ◇進んで「わたしの古典の楽しみ方」を見つけようとしている。(ノート)
	3	<p>「わたしの古典の楽しみ方」②を見つけるため、全文を音読し、見つけた楽しみ方を紹介する。                      お気に入りの作品に活用する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>原文にある具体的な表現を取り上げて、現代文と古文を比較させる</li> </ul> ◇進んでお気に入りの作品の楽しみ方を見つけようとしている。(プリント)
第3次	4	<p>&lt;ゴール わたしの古典の楽しみ方紹介をしよう&gt;                      ○古典にはどんなものがあるか調べ、お気に入りの作品を見つけ、音読したり、「わたしの古典の楽しみ方」を探したりする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>お気に入りの作品を見つけて、進んで読めるようにさせる。その際、第二次での「わたしの古典の楽しみ方」を活用させる</li> </ul> ◇関心をもち、進んで音読したり、紹介しようとしていたりしている。(プリント・画用紙)
	5	<p>○友だちに「わたしの古典の楽しみ方」を紹介したり、友だちの選んだ作品と自分の選んだ作品とを比較したりする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの作品がもつ言葉や表現のよさ、昔の人の考え方を発表させる。</li> </ul> ◇積極的に音読に取り組み、文語の調子の特徴や美しさに気付いている。

## 6 研究の視点

### 【視点1】ゴールを見据えた言語活動の展開

#### ① 見通しをもたせた学習計画を立てる

学習のゴールを「わたしの古典の楽しみ方を紹介しよう」と位置付け、どのような学習をするのか見通しを持たせる。

#### ② 視点をもった課題解決

「わたしの古典の楽しみ方」を見つけるために、2つの手立てを設定

- ・「春はあけぼの」を古文のみで春夏秋冬を比べ読みする。
- ・古文と現代文で比べて、表現のおもしろさを見つける。

#### ③ 「私の古典の楽しみ方」を紹介しあう

- ・聞き手によく伝わるような工夫をする。

(音読) → ・声の出し方・抑揚・リズム・表情・仮名遣い

(画用紙・プリント) → 作品名・作者名・場面絵・楽しみ方①・楽しみ方②

### 【視点2】グループ構成の工夫

#### ① 違う作品を選んだ友だちでの交流

作品の違いによって、時代背景や作者の考え方の違いに気づかせたい。

#### ② 同じ作品を選んだ友だちでの交流

同じ作品であっても、それぞれの楽しみ方があることを知り、よさを認め合いたい。

### 【視点3】よさを認め合う話し合い（話し合いを深める言葉集め）

#### ① つなぐ言葉

- ・似ているのですが
- ・他にあります
- ・少し違うのですが
- ・自分だったらと考えてみたのですが
- ・今気づいたのですが
- ・まとめます

#### ② 認める言葉

- ・そういう考えもあるんですね
- ・なるほど、よくわかります

## 8 本時の指導（2／5）

### （1）本時の目標

- ・「わたしの古典の楽しみ方」①を見つけるため、枕草子を音読することができる。
- ・枕草子で見つけた「わたしの古典の楽しみ方」を友だちに伝えることができる。

(2) 本時の展開

学習活動と内容	教師の支援 (○) と評価 (◇)
<p>1 前時で学習した古文での作品のおもしろさについて確認し、本時では現代文と比較しながら作品の新しい楽しみ方を見つけるといふ学習のめあてを確認する。</p>	<p>○学習内容を明確にして、学習の見通しがもてるようにさせる。</p> <p>○古文の間に現代文を入れて掲示し、全文が比べられるようにする。</p>
<p>わたしの古典の楽しみ方①を見つけよう。</p>	
<p>2 「春はあけぼの」の古文全体を音読する。</p> <p>3 グループで話し合い、枕草子の楽しみ方を見つける (季節感) 一つ一つの季節に作者が見つけた景色がえがかれているね。 (色の効果) 白や紫など、細かく色を見ている。光ややみに対して昔の人は敏感だったのかな。 (短い言葉) 現代文では長く説明されている言葉が古文では短いね。たとえば・・・。 (古語) 「いと」や「をかし」は今では全く使われていないな。自分のお気に入りの作品ではどうだろうか。 (昔のくらし) 炭を使うっていうのは昔の人の暮ららしいね。</p>	<p>○ゆっくりと読み、写真等を用いて、情景をイメージできるようにさせる。</p> <p>○読みにくい歴史的仮名遣いは、正しい読み方や意味を助言し音読させる。</p> <p>○自分がおもしろいと思うところに付箋をはらせる。</p> <p>○楽しみ方とは自分がおもしろいと思う表現であることを伝える。</p> <p>○現代文と古文を比べて共通点と相違点を見つけさせる。</p> <p>○グループで話し合い、それぞれの楽しみ方を交流させ、自分の考えを広げ深めさせる。</p> <p>○楽しみ方をうまく見つけられない時は、古文をグループで音読するようにし、音読も楽しみ方の一つであることを伝える。</p> <p>◇進んで「私の古典の楽しみ方」を見つけようとしている。(関心・意欲・態度)</p>
<p>4 グループでの交流をもとに、全体で枕草子の楽しみ方を話し合う。</p>	<p>◇作品独自のおもしろさや、古文がもつ共通のおもしろさに気づかせるために、グループごとに話し合った結果をまとめたホワイトボードを黒板に貼り、共通点や相違点を見つけさせて話し合わせる。</p>
<p>5 自分のお気に入りの作品で古典の楽しみ方を活用する。</p>	<p>○作品を読み進める中で、枕草子で見つけた楽しみ方から変わってもよいことを伝える。</p> <p>○楽しみ方を活用できそうな所には付箋をはらせる。</p>
<p>6 次時の予告をする。</p>	<p>◇進んでお気に入りの作品の楽しみ方を見つけようとしている。</p>

<古典コーナーリスト>

本の名前	主な収録作品	出版社
絵で見たのしい古典 1	古事記・風土記	学研出版
絵で見たのしい古典 2	竹取物語	学研出版
絵で見たのしい古典 3	源氏物語	学研出版
絵で見たのしい古典 4	枕草子・徒然草	学研出版
絵で見たのしい古典 5	今昔物語	学研出版
絵で見たのしい古典 6	平家物語	学研出版
絵で見たのしい古典 7	奥の細道	学研出版
絵で見たのしい古典 8	東海道中膝栗毛	学研出版
子ども版声に出して読みたい日本語 3	論語	草思社
子ども版声に出して読みたい日本語 6	枕草子・平家物語	草思社
はじめて出会う古典作品集 1	土佐日記・枕草子・更級日記 方丈記・徒然草・奥の細道	三村教育図書
(はじめて出会う古典作品集 2)	万葉集・古今和歌集・新古今和歌集・百人一首・ 短歌・俳句	三村教育図書
(はじめて出会う古典作品集 3)	落語・狂言・能・歌舞伎・人形浄瑠璃	三村教育図書
はじめて出会う古典作品集 4	竹取物語・伊勢物語・源氏物語・大和物語・大 鏡・堤中納言物語・平家物語・世間胸算用・南 総里見八犬伝	三村教育図書
はじめて出会う古典作品集 5	古事記・風土記・今昔物語集・宇治拾遺物語・ 十訓抄・沙石集・御伽草子・伊曾保物語	三村教育図書
(はじめて出会う古典作品集 6)	近代小説・近代詩・現代詩・童謡・唱歌・名句・ 名言・漢詩・漢文・故事成語	三村教育図書

古典の世界へようこそ

ここで紹介している古典作品を簡単に説明します。

気になったらどんどん声に出して楽しんでみてください。

① 枕草子まくらのはらうし

作者の清少納言は平安時代に活躍した人です。和歌の名門の家に生まれ和

歌や漢文に親しみながら、成長しました。当時は「漢文は男が学ぶもの」

とされていて、漢文に詳しくかった清少納言は、定子（宮廷に送り込まれた

天皇のきさき）にとっても大事にされたそうです。枕草子は日本で最初の

随筆（見聞きしたことや感じたことを、思いつくままに書いた文章のこと）

と言われ、彼女の経験したことや出来事が描かれています。

② 徒然草

鎌倉時代後期から室町時代の後期の作品です。人々が日常暮らしている世界

からは離れ、ひっそり隠れ住む人となっていた兼好法師の考え方が語られ

た随筆です。人の姿をユーモアを交えて語ったり、説教じみたことを述べ

たり、美しさを追究したりと、内容によって大きく三つに分けられています。

③ 竹取物語

現在伝わっている物語の中で、最も古い作品です。いわゆる「かぐや姫」

の物語で、みんなもよく知っている物語ではないでしょうか。五人の貴

公子へ出される無理難題むりなんだい。月に帰ってゆくかぐや姫の悲しみなど、今の

人にもおもしろいすてきな作品です。

④ 源氏物語

清少納言のライバルともいわれる紫式部の作品です。あの藤原道長にも認

められた存在だったそうです。物語の主人公は「この世のものとは思え

ないほど美しい」とされる光源氏。長い物語の中で、光源氏の恋多き人

生が描かれていきます。たくさんの女性との出会いで成長していく光源

氏とその子孫も後々語られていきます。

⑤ 南総里見八犬伝

舞台は室町時代の中期の安房あわ（今の千葉県南部）です。戦国武将里見

義実がピンチの時に助けてくれた飼犬の八房とのやりとりから始まり、

後に「八犬士」と呼ばれる仲間たちとの物語。8人とも名前に犬を持つ、

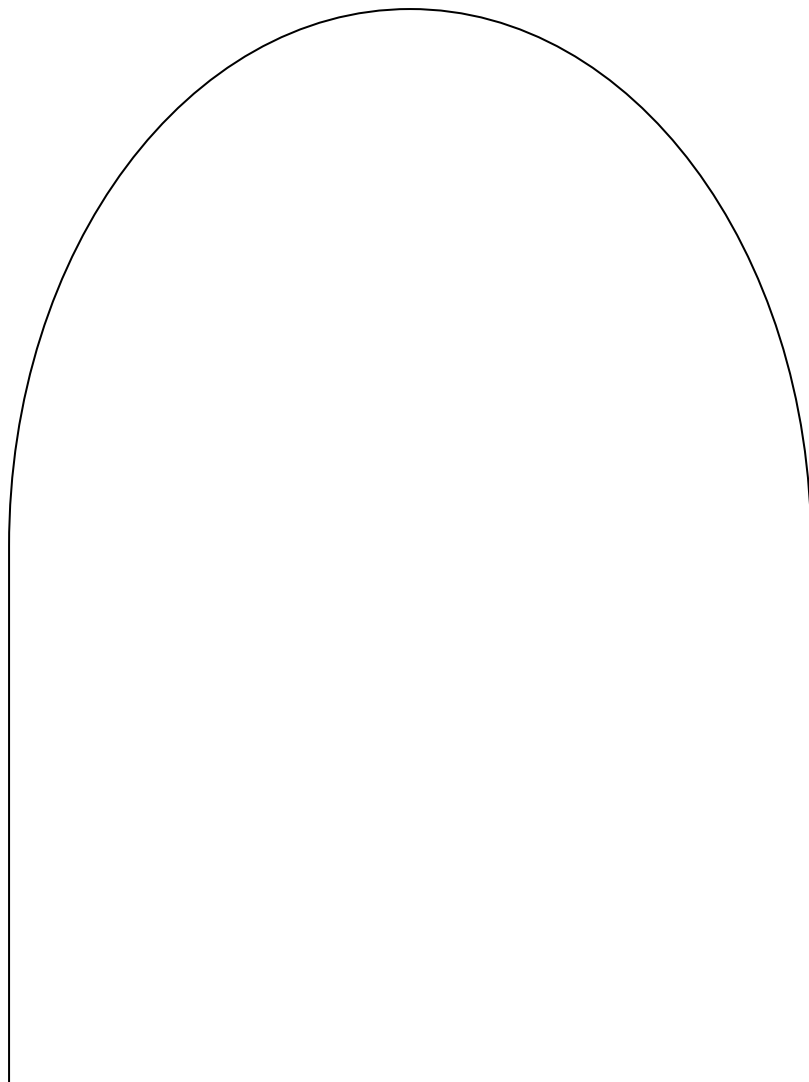
素敵なヒーローたち。それぞれのキャラクターがとても生き生きとして

います。

～「わたしの古典の楽しみ方」を紹介しよう～

名前（                  ）

作品名
作者名
あらすじ



わたしの古典の楽しみ方①

わたしの古典の楽しみ方②



～「わたしの古典の楽しみ方」を紹介しよう～

名前（ ）

作品名
作者名
あらすじ

目的や必要に応じて要約する  
(3・4年C 読むことエ) 既習  
※「作品を読んだことがない人に、  
そのおもしろさが伝わるように」  
という目的の設定を行う。  
第三次での交流で、話し合いの土  
俵をそろえるために必要だと考  
えた。

場面の情景を絵にすることで、お気  
入りの表現や言葉を明確にすると  
もに作品への愛着を高めていき  
たい。

好きな場面を絵にしよう！

わたしの古典の楽しみ方①

--

上の□の中には、楽しみ方を短い  
言葉で書き、下に自分の理由づけ  
を書いていく。  
(例) 季節感・色・音・言葉のリ  
ズム・昔の人の考え方・時代背景  
など

わたしの古典の楽しみ方②

--

昔の人のものの見方や感じ方  
について自分なりの考えをも  
っている。(伝国ア(イ))